

平成24年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493700197	事業の開始年月日	平成24年2月1日
		指定年月日	平成24年2月1日
法人名	株式会社日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 いちがお		
所在地	(〒 225-0014) 横浜市青葉区荏田西1-12-11		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成24年9月24日	評価結果 市町村受理日	平成25年2月28日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

私たち職員は会社の理念にもある「その人らしさ」を常に思い支援しています。普段生活されていたように、自由に生活・楽しく生活・安全に生活を出来るように、日々力を入れています。また、地域とのつながりを大事にしながら、行事、自治会等の集まりに、積極的に参加できるよう努めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年10月15日	評価機関 評価決定日	平成24年12月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、田園都市線の市ヶ尾駅から徒歩で10分余り、緩やかな坂を上がり少し下った住宅地に位置している。周りにはマンションや学生寮、戸建て住宅、駐車場がある。建物はRC造4階建てで1階が玄関と事務所、2階3階がグループホームになっている。以前は会社の独身寮であった建物をリフォームして利用している。4階は夏祭りなど事業所の行事のときに使用している。法人は多数のグループホームと有料老人ホームを運営しており、この事業所は平成24年2月に開設された。</p> <p>【事業所の理念と運営】 「花物語いちがお」独自の理念として「その人らしさを大切にします・尊厳を守ります・安心して生活できる環境を提供します」を掲げ、日々のサービスは理念に基づいて一人ひとりを尊重した取り組みをしている。花物語という名前を活かし毎月季節の生花を飾り季節感を大切に生活できるように配慮している。</p> <p>【運営推進会議の活用】 運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。自治会長、自治会法人部長、民生委員、地域包括支援センター、利用者家族、事業所職員をメンバーとしている。会議では事業所の運営状況や活動の報告、事故やヒヤリハットの報告、行事報告や行事案内、地域との情報交換、要望や意見交換をし、サービスの向上に活かしている。地域の一員として地域の理解と支援を得られる貴重な機会になっている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 いちがお
ユニット名	3F

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした事業所作りを基本に、理念にもある安心して生活できる環境作りをモットーにしている。	「花物語いちがお」としての理念を開所時に作成し、玄関フロアに掲示して誰もが目にするように配慮している。理念はサービスの柱と考え、職員は日ごろの介護の中で困った時には、理念に立ち戻り対応するようにしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（夏祭り・消防訓練）に積極的に参加しなじみを持ち、また地元の自治会を通してボランティアを活用しお互い楽しめる環境を作りたいと思っている。	荏田西自治会に加入している。自治会の夏祭り、防災訓練などの案内をもらっているが、今年は参加できなかった。地域にボランティアを募集したが、今のところ応募はない。運営推進会議に自治会役員が出席している。	地域の行事に参加したり、事業所の夏祭りなどの行事を、地域に案内して来訪していただくなど、地域との交流が増えていくことを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通し近隣との協力関係を積極的に行い、また施設を知ってもらう為、見学をオープンにしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し施設での生活様子を報告している。報告だけではなく、参加者の方から意見や要望を頂き、サービス向上に活かすようにしている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。会議には自治会長、自治会法人部長、民生委員、地域包括センター職員、家族、事業所職員が参加し、運営状況や活動内容の報告や意見交換・情報交換をしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の職員にも運営推進会議に参加して頂き情報を共有して頂き意見交換をする。	市や区役所の担当職員との連携は今はまだとれていない。介護保険の申請更新は家族がしている。事故報告書類などは市へ郵送している。地域包括センター職員が6月の運営推進会議に参加している。	開設後一年未満ではありますが、市や区役所の担当課を把握し、担当職員とも日ごろから連絡、相談ができるよう今後、顔見知りの関係を築いていくことを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人らしく自由に生活をして頂いている。事業所内のミーティングでも理解を深め研修も行っている。	身体拘束防止マニュアルを用い研修している。玄関は電子ロックで施錠されている。2階と3階の各フロアの出入り口も安全を考慮して施錠している。エレベーターも1階からは使えるが2階3階からは鍵がないと使えない。外出時は職員が同行している。	身体拘束とは何か、施錠については職員の見守りや、連携によって安全を確保しながら開錠する方法はないかなどを職員で話し合い、検討されることを期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを職員が見やすい所に置き何時でも閲覧できるようにし、研修も行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、外部研修の参加を含め職員間でも話し合いの場を設ける予定である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の契約の際はご家族が理解されるよう分かりやすく説明し、不安無く入居出来るように対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時はその都度、家族と話し意見を聞き、頂いた意見は申し送り時にスタッフへ伝えている。また面会の少ない家族には手紙をだし意見を聞き対応している。また、意見箱を活用している。	家族会はないが運営推進会議に家族が参加し、意見を出している。利用者の家族へ「意見書」を送付し、意見を記入してもらい回収している。職員の名前が分からないとの意見を受けて名札をつけるようにした事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどの機会を設け個人の意見や提案を聞き、出来るだけ反映させるように努め、風通しの良い職場作りに努めている。	2階と3階の合同会議を月1回開き、意見を出し合っている。気づいたことがあればその都度、提案できる体制がある。職員の提案で洗剤や日常消耗品の整理収納の棚を購入した。法人のエリア長が来訪時に職員の意見を聞くこともある。今回の自己評価は、日ごろの状況を見て管理者が記入した。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の効率化を図る為、備品整備を行い職場環境を整えている。職員の処遇改善についても、給与水準の見直し等を行った。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会を開き、個々にスキルアップ出来る様実施している。社内・社外の研修についても受講できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内その他施設の研修を設け、情報交換を行いスキルアップに努めている。横浜市グループホーム連絡会にも参加し情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分なアセスメントをとり入居後の生活が安心、安全に生活出来るようスタッフに把握してもらっている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の要望、家族の要望を十分に理解・把握し、本人にとってどのような生活が一番良いかを考えながら良い関係を築いて行く。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、入居者様が何を望んで入居されたのかを見極めて計画を立てる。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい生活、普段の生活をして欲しい。その為には出来る事はして頂くようお願いする。利用者様は人生の先輩で有ることを踏まえて行動をする。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況を家族に説明し、その利用者様の情報を共有し家族の要望、本人の要望を聞き支えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間等は基本は決められているが、家族等の事情によっては時間外も可能な事を説明している。外出、外泊も積極的に行って頂けるようお願いしている。	利用者の知人や友人が訪ねてきたときはゆっくり歓談できるようにお茶を出すなどの配慮をし、関係継続の支援をしている。家族と一緒に墓参りや以前住んでいたところに出かけることもある。電話の取り次ぎもしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションは常に皆で行えるよう声掛けを行い、一緒に、散歩、トランプ、風船バレーを行い孤立しないよう、支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了されても、家族から相談等があった場合は、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の個々の思いを傾聴し出来る事は実施している。難しい部分に関しては、スタッフのミーティングを通して解決に努めている。	職員は日常の会話から利用者の思いを把握するように心掛けている。会話の少ない方には、行動や表情から意向や希望を汲み取るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録と一緒に個人の経歴等をファイルし情報を共有し今後のサービスの参考にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々申し送りを行い、情報の共有を行っている。また申し送りノートを活用し漏れのないよう実施しております。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ドクター・看護師・ケアマネージャー・介護士等、様々な意見を反映し介護計画を作成している。	入居時に利用者・家族の意向や希望を聞いて、基本情報シートに記入し職員で共有しケアに活かしている。医師から診療報告書を受け取り、意見を出し合い、利用者に合わせて介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録においての変化等は、申し送りで共有し常に改善しようと介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の時間外の認可や体調不良にての通院対応は、必要に応じて支援、サービスを行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会を通じてボランティアの活動を推進している。また地元の行事に参加するよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で往診対応をしている。また、体調不良等の場合は隔週往診にこだわらず、その都度対応をしている。	入居前の疾病を継続して定期健診するため、入居前のかかりつけ医に家族の対応で受診している方もいる。協力医療機関の医師が隔週で往診し、利用者は全員受診している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は週2回対応し、利用者様の健康管理を行い、介護士から情報・気づきを把握した中で、医師に報告し適切な往診を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病医院関係者、家族と連絡を密にとり、状況を日々把握し、退院となった場合はスムーズに帰ホーム出来る様行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に関しては、契約時に説明し早期にドクター・家族と連携しながら対応するよう心がけている。</p>	<p>入居時に「利用者の状態が重度化した場合の対応に関する指針」を説明し、同意を得ている。これまでに看取りの事例はない。終末期や看取りについての研修は本年度の研修計画には入っていない。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急対応については、研修を行い周知徹底している。また緊急対応のマニュアルを作成し、皆が見える場所に掲示している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>施設内に食料・水の備蓄をしている。職員には年2回の避難訓練を計画実施し、避難方法、非常口の確認をしている。近隣の学生寮にも協力をお願いしている。</p>	<p>消防署の立ち会いの下で、火災を想定した初期消火、救命、避難訓練を11月に行うことになっている。備蓄は水・食料品・日常消耗品が用意されている。近くの学生寮の方に災害時の協力を依頼している。スプリンクラーが設置されている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当社の理念（その人らしさ・尊厳を守る・安心して生活できる場所）を常に考えながら支援している。	日ごろより理念に基づいて、その人らしさを大切にした支援に取り組んでいる。接遇の研修は6月に実施し、声かけや接し方に気をつけている。個人情報を含む書類は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かお手伝いを頼む場合は、本人の意思決定を尊重した中で手伝って頂くよう心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に関しては、状況を把握しながら、その都度対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問理美容を利用している。また更衣時も本人の意思決定に任せ、好きな洋服を着て頂くよう支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が出来る範囲で食事の野菜切り・食事の盛付・食器洗いは行って頂いている。また、ホットケーキ・焼きそば等、簡単に出来る事は、スタッフと一緒に作って頂いている。	利用者は職員と一緒に食事の盛り付けや片付けをしている。誕生日にはケーキを用意してお祝いしている。希望に合わせ外食や出前も取り入れている。	検食ということだけではなく、職員は、利用者と同じ献立の食事を一緒に取り、その日の味や一体感の共有をされるよう期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・水分量に関しては、その都度チェックしている。水分をあまり摂取してくれない利用者様に関しては、工夫して飲んで頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛け誘導にて口腔ケアを行っています。また、週1回訪問歯科により口腔内の診察を定期的に行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の状態を把握した中で、その人に合ったサイクルを見つけだし声掛け誘導を行っている。また、カンファ等を活用し、改善方法を考えられている。	個々の「排泄チェック表」から一人ひとりのパターンを把握し、トイレ誘導をしている。様子や時間をみて声かけをし、トイレでの自立排泄を支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師等の連携で、薬で対応している。また、家族からの情報で特定の飲み物を飲む事により便秘が改善される事を聞き実践している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の際は声掛けを行い必ず本人の意思決定で行っている。また、入浴の際には、必ずバイタル測定を行い体調をみて入浴をして頂いている。	入浴は基本的に2日に1回であるが、希望があれば入浴できるように支援している。入浴剤を使ったりして、入浴を楽しめるように配慮している。入浴を嫌がる方には、様子を見て別の職員が誘ったり、清拭やシャワーにかえている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない為、また夜、安眠して頂く為に、適度なお昼寝をして頂くよう支援している。また夜間、安眠して頂く為に定期巡視を行い、室温のチェック、安全のチェックを行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、必ず飲ませる側が別のスタッフに名前・日付け・何時の薬か・をチェックして頂き服薬して頂く。その際、別のスタッフは必ず薬の名前の利用者様に服薬させているかを確認するよう実践している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・洗濯たたみ・料理の準備等、本人の意思を確認しながら気分転換が出来る様支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の予定を決めて、出来るだけ外での行動が出来る様支援している。また近くの公園や買い物を兼ねてコンビニへ散歩に出掛けている。	天気が良い日は散歩に出ている。行事外出を計画し出かけている。職員と一緒に近くの公園まで歩く方や、コンビニエンスストアへ買い物に行く方もいる。玄関の長椅子で外気浴をしたり、元気な方は屋上に行ったりしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じて、お金を持っている利用者様もいる。殆どの利用者様は持っていませんが、買い物ツアー等を行い、自ら支払う事を実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設へ本人宛の電話があった時は取り次いでいる。また本人から家族へ電話をしたいと要望があった場合は電話をして頂いている。手紙等が届いた場合も本人に手渡している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りカレンダーを作り、日々利用者様に日付けを直して頂いている。季節感を味わえる行事を行った場合は、その写真を掲示している。	居間兼食堂は清潔で、明るく壁には利用者が作った作品が飾られている。玄関には季節の生花が飾られ季節感を取り入れている。廊下には、行事のときの写真が飾られている。トイレ、風呂場、台所などの清掃は担当が決まっていて清潔に保たれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にソファを置き一人で外を眺める事が出来たり、また、施設の屋上に、椅子とテーブルを置き天気の良い日は仲の良い利用者同士で会話を楽しめるよう実践している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のレイアウトは本人、家族の要望に答えている。持ち込みに関しても制限はない。（危険を伴う物（火器）（貴重品）に関しては例外で持ち込みを断る場合がある。	居室には、整理ダンス・テレビ・鏡台・机・椅子など好みの家具をおき、居心地よく過ごせるように各自でしている。家族の写真を飾っている。居室の掃除を職員と一緒にする方もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が歩かれる所は手すりが設置されており安全に移動が可能。トイレ、浴室も案内板があり声掛けでわかる利用者様もいる。		

事業所名	花物語 いちがお
ユニット名	2F

アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした事業所作りを基本に、理念にもある安心して生活できる環境作りをモットーにしている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（夏祭り・消防訓練）に積極的に参加しなごみを持ち、また地元の自治会を通してボランティアを活用しお互い楽しめる環境を作りたいと思っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通し近隣との協力関係を積極的に行い、また施設を知ってもらう為、見学をオープンにしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し施設での生活様子を報告している。報告だけではなく、参加者の方から意見や要望を頂き、サービス向上に活かすようにしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の職員にも運営推進会議に参加して頂き情報を共有して頂き意見交換をする。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人らしく自由に生活をして頂いている。事業所内のミーティングでも理解を深め研修も行っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを職員が見やすい所に置き何時でも閲覧できるようにし、研修も行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、外部研修の参加を含め職員間でも話し合いの場を設ける予定である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の契約の際はご家族が理解される様分かりやすく説明し、不安が無いよう入居出来るように対応します。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時はその都度、家族と会話し意見を聞き、頂いた意見は申し送り時にスタッフへ伝えていきます。また面会の少ない家族には手紙をだし意見を聞き対応しています。また意見箱の活用。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどの機会を設け個人の意見や提案を聞き、出来るだけ反映させるように努め、風通しの良い職場作りに努めています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の効率化を図る為、備品整備を行い職場環境を整えている。職員の処遇改善についても、給与水準の見直し等を行った。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会を開き、個々にスキルアップ出来る様実施しています。社内・社外の研修についても受講できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内の他施設の研修を設け、情報交換を行いスキルアップに努めている。横浜市グループホーム連絡会にも参加し情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分なアセスメントをとり入居後の生活が安心、安全に生活出来るようスタッフに把握してもらっている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の要望、家族の要望を十分に理解・把握し、本人にとってどのような生活が一番良いかを考えながら良い関係を築いて行く。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、入居者様が何を望んで入居されたのかを見極めて計画を立てる。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい生活、普段の生活をしたい。その為には出来る事はして頂くようお願いする。利用者様は人生の先輩で有ることを踏まえて行動をする。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況を家族に説明し、その利用者様の情報を共有し家族の要望、本人の要望を聞き支えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間等は基本は決められているが、家族等の事情によっては時間外も可能な事を説明してあります。外出、外泊も積極的に行って頂けるようお願いして有ります。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションは常に皆で行えるよう声掛けを行い、一緒に、散歩、トランプ、風船バレーを行い孤立しない様、支援に努めてます。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了されても、家族から相談等があった場合は、対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の個々の思いを傾聴し出来る事は実施しています。難しい部分に関しては、スタッフのミーティングを通して解決に努めています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録と一緒に個人の経歴等をファイルし情報を共有し今後のサービスの参考にしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々申し送りを行い、情報の共有を行っています。また申し送りノートを活用し漏れのない様実施しております。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ドクター・看護師・ケアマネージャー・介護士等、様々な意見を反映し介護計画を作成しています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録においての変化等は、申し送りで共有し常に改善しようと介護計画の見直しに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の時間外の認可や体調不良にての通院対応は、必要に応じて支援、サービスを行っています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会を通じてボランティアの活動を推進してます。また地元の行事に参加するよう支援しています。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で往診対応をしてます。また、体調不良等の場合は隔週往診にこだわらず、その都度対応をしてます。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は週2回対応し、利用者様の健康管理を行い、介護士から情報・気づきを把握した中で、ドクターに報告し適切な往診を行っています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病医院関係者、家族と連絡を密にとり、状況を日々把握し、退院となった場合はスムーズに帰ホーム出来る様行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に関しては、契約時に説明し早期にDr・家族と連携しながら対応するよう心がけています。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急対応については、研修を行い周知徹底してます。また緊急対応のマニュアルを作成し、皆が見える場所に掲示してます。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>施設内に食料・水の備蓄をしている。職員には年2回の避難訓練を計画実施し、避難方法、非常口の確認をしている。近隣の学生寮にも協力をお願いしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当社の理念（その人らしさ・尊厳を守る・安心して生活できる場所）を常に考えながら支援しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かお手伝いを頼む場合は、本人の意思決定を尊重した中で手伝って頂くよう心がけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に関しては、状況を把握しながら、その都度対応しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問理美容を利用しています。また更衣時も本人の意思決定に任せ、好きな洋服を着て頂くよう支援しています。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が出来る範囲で食事の野菜切り・食事の盛付・食器洗いは行って頂いています。また、ホットケーキ・焼きそば等、簡単に出来る事は、スタッフと一緒に作って頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・水分量に関しては、その都度チェックしてます。水分をあまり摂取してくれない利用者様に関しては、工夫して飲んで頂いています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛け誘導にて口腔ケアを行っています。また、週1回訪問歯科により口腔内の診察を定期的に行っています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の状態を把握した中で、その人に合ったサイクルを見つけだし声掛け誘導を行っている。また、カンファ等を活用し、改善方法を考えている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師等の連携で、薬で対応してます。また、家族からの情報で特定の飲み物を飲む事により便秘が改善される事を聞き実践してます。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の際は声掛けを行い必ず本人の意思決定で行っています。また、入浴の際には必ずバイタル測定を行い体調をみて入浴をして頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない為、また夜、安眠して頂く為に、適度なお昼寝をして頂くよう支援しています。また夜間、安眠して頂く為に定期巡視を行い、室温のチェック、安全のチェックを行っています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、必ず飲ませる側が別のスタッフに名前・日付け・何時の薬か・をチェックして頂き服薬して頂く。その際、別のスタッフは必ず薬の名前の利用者様に服薬させているかを確認する様実践している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・洗濯たたみ・料理の準備等、本人の意思を確認しながら気分転換が出来る様支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の予定を決めて、出来るだけ外での行動が出来る様支援している。また近くの公園や買い物を兼ねてコンビニへ散歩に出掛けている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じて、お金を持っている利用者様もいます。、殆どの利用者様は持っていませんが、買い物ツアー等を行い、自ら支払う事を実践しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設へ本人宛の電話があった時は取り次いでいる。また本人から家族へ電話をしたいと要望があった場合は電話をして頂いています。手紙等が届いた場合も本人に手渡しています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りカレンダーを作り、日々利用者様に日付けを直して頂いています。季節感を味わえる行事を行った場合はその写真を掲示しています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にソファを置き一人で外を眺める事が出来たり、また、施設の屋上に、椅子とテーブルを置き天気の良い日は仲の良い利用者同士で会話を楽しめる様実践している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のレイアウトは本人、家族の要望に答えています。持ち込みに関しても制限は有りません。（危険を伴う物（火器）（貴重品）に関しては例外で持ち込みを断る場合があります。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が歩かれる所は手すりが設置されており安全に移動が可能です。トイレ、浴室も案内板があり声掛けでわかる利用者様もいます。		

目標達成計画

事業所名

花物器いしあか

作成日

平成25年1月20

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域との関係が不透明である。	地域との連携強化を図る。	地域の行事の平表を事前に頂上。各社へ依頼し参加を促す。	12月
2	4	市町村との連携が取れない。	市町村役所との連携を再確認、地域協働等の支援を頂上。参加を促す。	運営協議会議を依頼し、市町村役所の理事者と参加に促す。町内会を依頼し、市町村役所と連携を図る。	12月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。